

白馬村長 福島信行 殿

白馬村民フォーラム

代表 渡邊俊夫

提言書

去る2月18日、白馬村ふれあいセンターに4名の参加者が集い、「“道路”と“みち”のあり方とは？」をテーマに、第5回白馬村民フォーラムを開催しました。

白馬村に於ける道の現状、日本や世界に於ける自動車と歩行者に対する新しい考え方に基づく整備方法、等々の資料を基にして限られた時間での真剣な論議をいたしました。

議論の結果を下記のように提言として纏めましたので、ここにご報告申し上げます。

利便性の追求から「楽しい道」づくりへの転換

村内の現状を見ると車のための道路整備は今や十分である。今後は生活者・観光客を問わず、歩く側の視点に立った“道”の整備が求められる。尚、積雪期と無積雪期では歩くための装備や方法が異なるが、適応した環境整備が求められる。また、“道”を単なる移動手段とする考え方から脱し、人と人が触れ合う場所と位置づけ、地域住民自らが率先して美化に努め「楽しい道」づくりに参加する必要がある。

自然を大切にしたい道づくり

白馬村は豊かな自然の中にあり、この自然こそが主役となる道づくり求められる。特に素材・工法・意匠等は自然環境に対して最大限の配慮を払い、且つ機能を果たしながらも最低限の造作となるように心掛けることが肝要である。

急がれる公共交通網の整備

過去30年間で倍増した村内自動車保有台数が生活環境のみならず自然環境に及ぼした影響は甚大である。新たな思想の元、駐輪場間での乗り捨て自由な無料自転車の設置や枝線を隈無く網羅するシャトルバスの運行など、“車に乗らなくてもよい”生活及び商業基盤整備づくりが急ぎ求められる。特に、子供からお年寄りまで、また障害を持つ人たちに優しく、自転車やスキーなどの大きな荷物をそのまま持ち込めるような、ステップが低く出入り口の大きい小型シャトルバスでのきめ細かな村内の運行に大きな期待が掛かる。

又、公共交通網の整備により二酸化炭素排出量が抑制され温暖化防止への大きな貢献となる。自然環境の素晴らしさと共にその保全に対する積極的な取り組みが村の評価を高めることになる。

<フォーラム提案>

塩の道祭り期間中の千国街道歩行者天国化

今や参加者数に於いて村内最大のイベントとなったのが、“歩く”楽しみを国内外に知らしめた「塩の道祭り」である。この期間中の千国街道を歩行者天国として屋台などを並べ、“歩く”ことの楽しみを更に高めたい。